

2009年5月22日

エジプトの銀行セクターは安定成長株？

ひとときわ目立つエジプト銀行セクターの健全性

昨秋以降の金融危機の影響で世界の金融機関のファンダメンタルズが悪化する中、エジプトの銀行セクターの健全性がひとときわ目立つ。背景にはエジプト中央銀行（CBE）主導で銀行セクターの再編が進んだことや、国内銀行のリスク管理徹底や財務体質の強さがある。

IMFは4月に発表した世界経済見通しの中でCBEの金融政策に言及し、流動性供給や利下げなど、金融危機への対応を高く評価した。

CBEは国内銀行の財務基盤強化を図るため、自己資本比率引き上げや国営銀行の民営化など、一連の改革を推し進めている。その結果、体力強化と自己資本比率規制を達成するためM&Aによる銀行再編が加速、銀行の数は4年前の60行から40行にまで減少した。

年明け最初となる2月の金融政策委員会でCBEは1.0%の利下げを発表し、インフレ抑制から景気重視へと金融政策の軸足を移した。3月に連続利下げに踏み切り、年明けからの利下げ幅は計1.50%になった。

昨年8月に23.6%を記録したインフレは4月に11.6%まで下落し、物価動向は落ち着きを見せている。CBEは3月の利下げ発表後の声明文で、インフレが依然として高水準にあるとしながらも、年央には適正レベルまで下落すると予測している。また、金融危機の影響が比較的軽微とする一方で、世界的な景気後退が国内の経済成長見通しに与える影響に懸念を示した。物価安定と高成長維持の両立を図るため、CBEには慎重な舵取りが必要となる。

IMFは2009年のエジプト経済の成長率を3.6%と予測し、過去2年の7%成長からの大幅な鈍化を見込んでいる。しかし、新興国平均の1.6%を大きく上回っており、決して悪い内容ではない。モルガン・スタンレーは5月、内需拡大や健全な対外債務状況を総合的に分析した結果、エジプト株の買いを奨励した。景気が減速したとはいえ、エジプト経済のファンダメンタルズは強いといえる。

成長鈍化は資金需要の減少を引き起こしており、エジプト銀行セクターが全く影響を受けないわけではない。しかし、デリバティブや証券化商品などリスクの高い投資を避け、国内の銀行業務に専念したエジプトの銀行は他国の金融機関が直面している深刻な危機とは無縁だ。

クウェート証券大手グローバル・インベストメント・ハウスは2月、国内の景気動向次第ではエジプト銀行セクターに融資先の業績悪化リスクが伴うとしながらも、外的要因による影響がないことを評価し、同セクターの09年の見通しは安定的だと述べた。

CBEの強力な監督・支援の下でエジプトの銀行の経営基盤は強固なものになった。景気減速の影響で減益は避けられないにせよ、多くは赤字に陥ることはなさそうだ。リスク管理の高さや明るい見通しを評価し、投資家の中には銀行銘柄をディフェンシブ株とみる動きも見られる。

実際、1-3月期決算を公表済みの大手行の業績をみると、コマーシャル・インターナショナル・バンク（CIB）の純利益が前年同期比1.4%増、ナショナル・ソシエテ・ジェネラル・バンク（NSGB）が同50%増となり、いずれも市場予想を上回っている。

世界的な不況を背景に、新たな収益源としてエジプトの銀行セクターに注目する外国銀行は多い。4月にエジプトに進出したドバイのマシュレク・バンクがその例だ。

マシュレクは当初、エジプトで30店舗から50店舗の営業を予定していたが、金融危機の影響もあり、ひとまずは10店舗でスタートした。それでも世界的に厳しい経済環境下でエジプト進出に踏み切ったのは、持続的な経済成長や若年層の増加による金融サービス需要の拡大期待がある。マシュレクは10店舗の成果を見極めた上で、店舗を拡大すると発表している。

■当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果および市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は投資家の皆様にエジプト市場のご理解を高めて頂くために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。また、特定ファンドの勧誘、販売を目的としたものではありません。